



作家
元国際線乗務員
黒木安馬

【プロフィール】高校時に米国留学後、早稲田大学を経てJAL国際線客室乗務員として30年勤務。世界初の「カラオケ・フライト」や「1万メートル上空・北島三郎機上コンサート」などを実現させる。千葉の自宅は1300坪の山林を開墾してプール、テニスコート、コンサートホール等を手作りする。現在、(株)日本成功学会社長として自己啓発や社員教育で講演中。著書に『ファーストクラスの心配り』、『あなたの人格以上は売れない!』(プレジデント社)、『成「幸」学』(講談社)、『出過ぎる杭は打ちにくい!』(サンマーク出版)、『面白くなくちゃ人生じゃない!』(ロングセラーズ)、『小説・球磨川』(上下巻・ワニブックス)などがある。
E-mail:yasuma@myad.jp URL:http://www.7b.biglobe.ne.jp/~sanpercent-club/

21世紀だ! ————— 人生・農業リセット再出発 212

正露丸

胃袋をアイスピックで刺すような転げまわるほどの激しい腹痛と、胃液だけしか出てこない嘔吐。サバの刺身を食べて数時間後のこと、病院で内視鏡を胃に突っ込んで診て貰うと、嘘のように痛みが治まる。長さ2cmの太い糸状の白い回虫みたいなものがピンセットの先で丸まっている。

「寄生虫のアニサキスですね。生魚に寄生していて、それが胃壁に食いついていました。サバにはアニサキス虫が多く寄生していますが、不思議と太平洋側で捕れたサバやイカなどにはいるのに、日本海側の魚にはいないのです。近くに病院が無い場合は、セイロガン^①を服用するとアニサキスを退治できますよ。セイロガンは、アニサキス症用薬剤として特許を持っていますからね」

「セイロガンがですか? そういえば子供の頃は家庭常備薬に置いてありましたね。ただ独特の匂いと後味が悪くてどうも……」

「ブナやマツなどから抽出した木クレオソート^②ですが、歴史は古く、腸内菌に影響することなく腸の調子を整えることができるのです。日露戦争では兵隊の携帯薬として大活躍し、戦地で歯痛や不衛生な水での下痢、チフスなどの伝染病抑制効果を発揮したそうです。飲みにくくて兵隊も敬遠していたのを『陛下ノゴ希望ニヨリ』と明治天皇の名で飲ませたそうです」

「そういえば、セイロガンって、ラッパのマークに“征露丸”と書いてあって、ロシア軍を征伐する意味だと聞きました」

「そうです大幸薬品ですね。戦後は敵意を示す“征”ではなく“正”に変更して正露丸になりました。ただ、正露丸を服用すると、胃や腸内の善玉・悪玉酵素なども綺麗に一掃しますので、ヨーグルトを食べて善玉酵素を早めに補充するのが賢明ですね」

「日露戦争で思い出しましたが、JALで新潟—ハバロフスクを何度か乗務したことがあります、

軍港の『ウラジヴォストック』の意味は、“東方を征服せよ!” だをご存知でしたか? ウラジは“征服する”で、ヴォストックは“東方”、ロシアでは征日丸と名付けられたかも知れませんね」

「日露戦争の前の日清戦争は1894年ですが、日本の陸軍と海軍では大きな医学的解釈の違いがありました。ドイツ留学帰りの陸軍の軍医総監であった森鷗外は、ドイツ医学を主とした東京大学医学界の最高峰にいましたが、チフス以上に多くの兵隊が死ぬ病“脚気”も細菌感染症であり、正露丸で治ると信じていました。陸軍では兵隊に戦意高揚として、超贅沢な白米を腹一杯食べさせていました。ところが兵隊の3人に1人の割合で、25万人が脚気で倒れて、3万人が死亡しました。

かたや海軍軍医の高木兼寛は、欧米の兵隊には脚気が発生していないことに注目し、栄養障害疾患ではないのかと、パンや麦飯を採用したら、脚気による戦病死者がほとんど出なかったそうです。江戸時代後半から、玄米を精米した白米食が流行り出したのですが、次第に脚気患者が増えだして、江戸患いと呼ばれるようになりました。後に分かってくるのですが、ビタミンB₁、チアミンが豊富な玄米の胚芽を捨てて白米にするのが原因なのですが、当時、ビタミンBは未発見でした。

銃弾よりも多くの命を奪った脚気ですが、陸軍はメンツにかけて海軍のやり方には賛同しなかったのです。東京大学の農学者・鈴木梅太郎が、動物を白米で飼育すると脚気症状が出るが、米糠・麦・玄米を与えると快復することを発見し、生命維持に不可欠なのに体内で生合成できない微量な有機物・ビタミン学説を提唱したのです。陸軍が白米を止めて麦3割の麦飯を採用したのは、海軍から遅れること30年も経ってからだったのですよ」

様々な試行錯誤を経て今日の健康があることに感謝、まさに「生きているだけで丸儲け」なのだ。